

ごみ搬入量の推移はどうなっているの？

単位:トン

	平成22年度 (各年度4月～2月まで)	平成23年度	平成24年度
青梅市	28,705.19	28,950.16	28,309.29
福生市	11,638.69	11,597.51	11,427.64
羽村市	11,029.35	11,179.79	11,228.83
瑞穂町	7,521.55	7,682.72	7,659.13
構成市町計	58,894.78	59,410.18	58,624.89
構成市町外	2,236.44	0.00	1,291.13
合計	61,131.22	59,410.18	59,916.02



生ごみは水をよく切ってから出してね！

平成24年度2月末現在、構成市町（青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）から搬入された燃やせるごみの量は58,624.89トンで、前年度と比べ785.29トン（1.3%）の減量となっており、年度末までの累計では前年度と同じ約64,000トンの搬入を見込んでいます。

なお、搬入量全体では、前年同期と比べ505.84トン（0.9%）増量しています。これは、平成24年度の主要事業として、東日本大震災に伴う宮城県女川町の災害廃棄物を受入れたことによるものです。

ごみ焼却処理に伴う排出ガスの測定結果の状況は？

■ 排出ガス測定結果 下の表は、平成24年度の排ガス測定の結果です。すべての項目において、法規制値ならびに公害防止協定値を下回っています。

項目	硫黄酸化物	窒素酸化物	ばいじん	塩化水素	水銀	ダイオキシン類	
単位	ppm	ppm	g/m <sup>3</sup> (N)	ppm	mg/m <sup>3</sup> (N)	ng-TEQ/m <sup>3</sup> (N)	
法規制値	(約440)	250	0.08	430	—	1	
公害防止協定規制値	30	50	0.02	25	—	0.5	
公害防止協定目標値	10	40	0.01	10	0.05	0.1	
1号炉	H24.7.13	<1	25	<0.001	8	0.007	0.0048
	H24.10.31	<1	18	<0.001	8	—	0.0045
	H24.11.20	<1	22	<0.001	9	—	—
	H25.3.6	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中	分析中
2号炉	H24.6.27	<1	28	<0.001	8	<0.005	0.0084
	H24.9.28	<1	18	<0.001	9	—	0.0069
	H25.1.9	<1	28	<0.001	10	<0.005	0.0017
	H25.2.28	分析中	分析中	分析中	分析中	—	—
3号炉	H24.5.11	<1	20	<0.001	8	0.009	0.0098
	H24.8.31	<1	35	<0.001	8	—	0.0088
	H24.12.18	<1	32	<0.001	10	<0.005	0.0032

◎ 赤字は、災害廃棄物焼却時の測定結果です。

■ 大気環境中のダイオキシン類測定結果 単位:pg-TEQ/m<sup>3</sup>

採取場所	採取日	H22.12.14~ H22.12.15	H23.12.19~ H23.12.20	H24.12.18~ H24.12.19
環境基準値		0.6		
羽村市立羽村第三中学校		0.035	0.022	0.011
羽村市立松林小学校		0.042	0.019	0.0081
羽村市立あさひ公園		0.034	0.017	0.011
瑞穂町立瑞穂第四小学校		0.044	0.020	0.014
瑞穂町富士見公園		—	0.025 ※	0.0079
瑞穂町むさしの会館		0.038	—	—

◎ 赤字は、災害廃棄物焼却時の測定結果です。

左の表は、西多摩衛生組合周辺の大気環境中のダイオキシン類測定結果（12月測定分）です。測定は、24時間の試料採取による測定結果で、各地点とも環境基準値を下回っています。

なお、瑞穂町内の測定場所については、平成23年度より、『瑞穂町むさしの会館』から『瑞穂町富士見公園』に変更しています。

※ 富士見公園の測定日は、H23.12.20~H23.12.21までの結果です。

アクセス図



編集・発行 西多摩衛生組合 2013年3月発行【No.15】

（構成団体 青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）

- 西多摩衛生組合環境センター  
住所：〒205-0012 東京都羽村市羽4 2 3 5  
TEL：042-554-2409 FAX：042-554-2426
- フレッシュランド西多摩  
住所：〒205-0012 東京都羽村市羽4 2 2 5  
TEL：042-570-2626 FAX：042-570-2288

西多摩衛生組合  
ホームページ

<http://www.nishiei.or.jp>

西多摩衛生組合

2013年3月発行  
No.15

# にしたまエコにゅうす

宮城県女川町の災害廃棄物の受入れ終了について

平成24年6月から実施している宮城県女川町の災害廃棄物の受入れは、当初の予定どおり平成25年3月末をもって終了します。

皆さまに深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

平成23年3月11日の東日本大震災により、東北地方においては膨大な量の災害廃棄物が発生し、復興に向けて大きな障害となりました。西多摩衛生組合では、構成市町（青梅市・福生市・羽村市および瑞穂町）の意思決定に基づき、被災地のより早い復旧・復興に支援協力するため、東京都が実施する災害廃棄物受入処理事業に参加し、平成24年6月11日から宮城県女川町の災害廃棄物を受入れてきました。

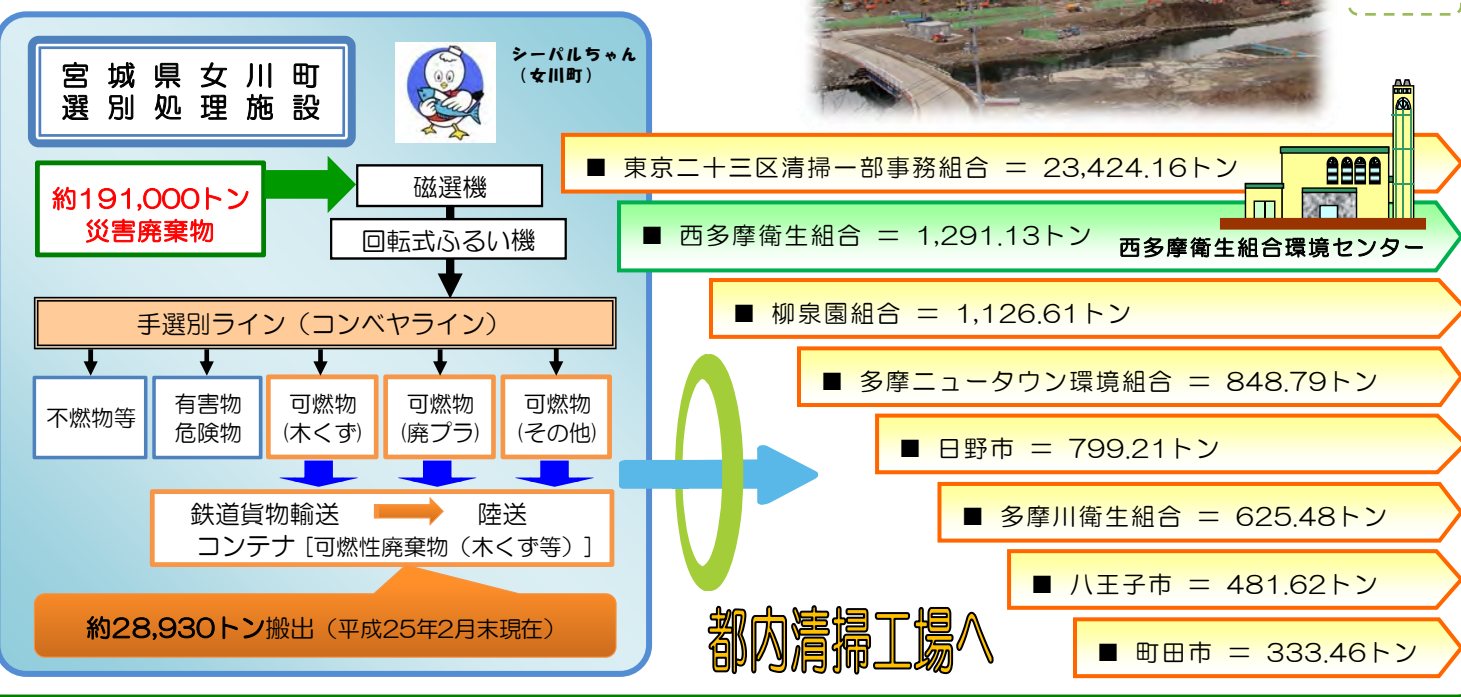
平成25年2月末現在の状況では、女川町の一次仮置場にある災害廃棄物のうち、選別処理を終えた約2万8,930トンの可燃性廃棄物（木くず等）が東京都内の清掃工場各所に運ばれ処理されました。西多摩衛生組合での災害廃棄物受入れについては、現地での選別・搬出作業が完了したことに伴い、当初の計画どおり平成25年3月末をもって終了します。

西多摩衛生組合の受入実績は、平成25年2月末現在で約1,291トンであり、支援開始時の予定量と比べ半減しています。これは、計画当初に見込まれていた女川町の災害廃棄物（可燃物）の発生量が精査され3分の1程度に下方修正されたことや、二十三区および多摩地域の多くの清掃工場で分散して受入処理が進められたことによるものです。西多摩衛生組合としては、微力ながら女川町の復興への一助に貢献できたものと考えています。

西多摩衛生組合では、災害廃棄物受入れ終了後も法令等に基づき、継続して焼却灰中の放射性物質等の測定を行い安全確認に努めるとともに、測定結果については、組合ホームページ等でお知らせしていきます。



平成24年3月13日撮影  
平成25年2月18日撮影  
比へ、平成25年2月現在の写真では、がれきの目立たなくなっているのが確認できます。



注：上記図中の受入実績量は、平成25年2月末現在の数値です。

## 災害廃棄物の受入れ状況

平成 25 年 3 月 22 日の搬入をもって受入終了

○ 地元の皆さまのご理解とご協力をいただき、西多摩衛生組合は多摩地域の清掃工場 7 施設の中で一番早く災害廃棄物の受入れを開始することができました。平成 25 年 2 月末までの受入実績は 1,291.13 トンで、同時期までの受入予定量 2,640 トンと比べると約 1,349 トン（約 51%）減少しています。

年 月		H24.6	H24.7	H24.8	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	小 計	H25.3	合 計
受入予定	日数(日)	15	15	15	20	23	22	20	11	14	155	21	176
	台数(台)	35	40	35	100	115	110	100	55	70	660	105	765
	予定量(ト)	140	160	140	400	460	440	400	220	280	2,640	420	3,060
受入実績	日数(日)	15	10	5	15	13	21	15	8	14	116	-	116
	台数(台)	35	20	10	35	59	71	55	16	33	334	-	334
	受入量(ト)	139.58	75.79	38.35	134.91	225.37	272.44	212.83	62.35	129.51	1,291.13	-	1,291.13

※ 本紙編集時の平成 25 年 3 月 15 日現在での受入実績は、累計で 1,372.32 トンとなっています。

## 西多摩衛生組合環境センターでの焼却状況

災害廃棄物 焼却前後の主要比較データ

主な監視項目	災害廃棄物焼却前	災害廃棄物焼却後	管理値
	最大(小)値	最大(小)値	
一次燃焼温度 (°C)	806	812	≥800
二次燃焼温度 (°C)	882	860	≥800
排ガス一酸化炭素濃度 (ppm)	80	85	≤100
排ガス塩化水素濃度 (ppm)	10	8	≤25
排ガス窒素酸化物濃度 (ppm)	39	35	≤50
排ガス中のダイオキシン類 (ng-TEQ/m³N)	0.0098	0.0088	≤0.5
排ガス中のアスベスト (本/L)	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.1)	基準なし
集じん器差圧 (mmH₂O)	110	109	≤150

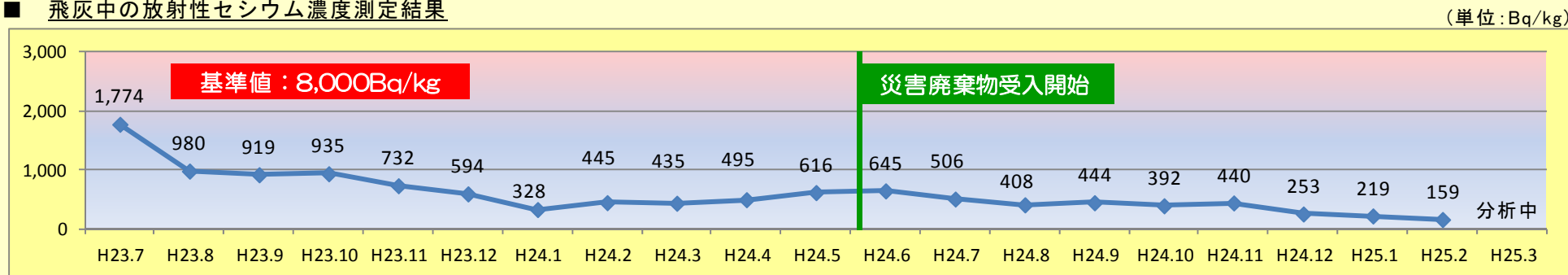
※ 「不検出」とは、検出下限値以下を表します。また、( ) 内は、検出下限値を表します。  
 ※ 災害廃棄物焼却後の測定値は、平成 24 年 6 月から平成 25 年 2 月までの実績です。  
 ※ 清掃工場の排ガスに対するアスベストの基準値はありません。

○ 災害廃棄物の焼却前後における燃焼管理の主な監視項目のデータ比較では、左の表のとおり各種測定値に大きな変動は見られませんでした。

このことから、災害廃棄物の受入れによるごみ焼却業務への影響はなかったものと判断できます。

## 西多摩衛生組合環境センターの放射性セシウム濃度および空間線量率の測定結果

### ■ 飛灰中の放射性セシウム濃度測定結果



※ 飛灰中の放射性セシウム濃度は、セシウム 134 とセシウム 137 の合計値です。 (\*注) 『飛灰(ひばい)』とはごみ焼却で発生する排ガス中に含まれる焼却灰で、集じん器等で捕集されたばいじんです。

### ■ 排ガス中の放射性セシウム濃度測定結果

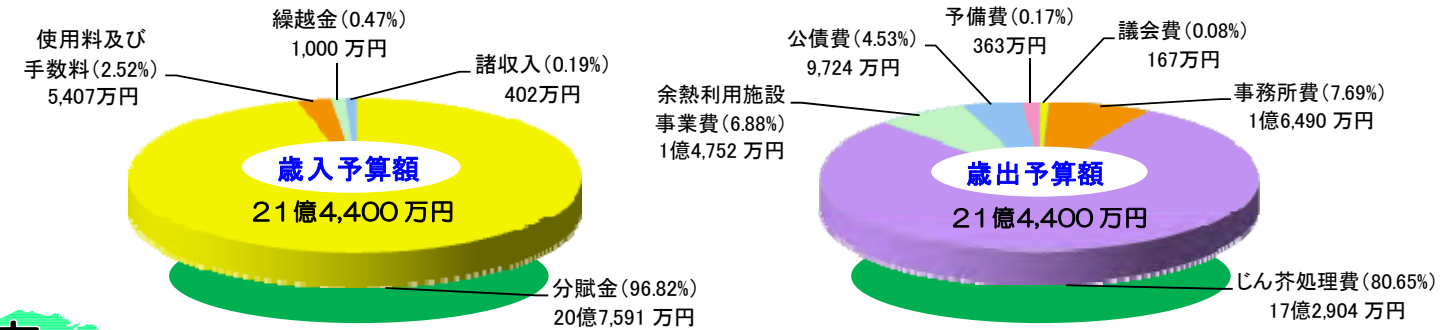
		災害廃棄物受入開始															
年 月		H23.7	H24.1	H24.2	H24.3	H24.4	H24.5	H24.6	H24.7	H24.8	H24.9	H24.10	H24.11	H24.12	H25.1	H25.2	H25.3
号 炉		2号炉	2号炉	3号炉	1号炉	3号炉	3号炉	2号炉	1号炉	3号炉	2号炉	1号炉	1号炉	3号炉	2号炉	2号炉	1号炉
ろ紙部	放射性セシウム134	不検出 (<0.063)	不検出 (<0.35)	不検出 (<0.43)	不検出 (<0.40)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	分析中
	放射性セシウム137	不検出 (<0.075)	不検出 (<0.42)	不検出 (<0.42)	不検出 (<0.35)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	分析中
ドレン部	放射性セシウム134	不検出 (<2.5)	不検出 (<0.75)	不検出 (<0.76)	不検出 (<0.88)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.7)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.7)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.6)	不検出 (<0.5)	分析中
	放射性セシウム137	不検出 (<2.8)	不検出 (<0.85)	不検出 (<0.75)	不検出 (<0.80)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.6)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.6)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.5)	分析中

※ 「不検出」とは、検出下限値以下を表します。また、( ) 内は、検出下限値を表します。なお、検出下限値以下は、「不検出」となります。  
 ※ 平成 24 年 6 月以降は、災害廃棄物受入後の値です。  
 ※ ろ紙部・・・排ガス中の粒子状物質を煙道に設置したろ紙によって捕集します。  
 ※ ドレン部・・・ろ紙部を通過した排ガスを蒸留水等が入った吸収ビンに接触させて捕集します。

## 平成25年度当初予算の概要

2月議会で可決されました。

- 下の円グラフは、2月議会定例会において可決された平成 25 年度当初予算の内訳を示したもので、歳入歳出予算の総額は、前年度比で約 9.6%、1 億 8,700 万円の増額となっています。
  - 歳入予算額の約 97%は組合を構成する 3 市 1 町が負担している分賦金(ぶんぷきん)です。
  - 歳出予算額の約 81%はごみ処理の経費に充てられるじん芥処理費です。平成 25 年度は、さらなる環境負荷の低減と施設の長期的な安定稼働を図るため、環境センターの主要な設備機器の更新工事である基幹的設備改良工事(中央監視装置改良工事)等の経費を新たに計上しています。これに伴い、じん芥処理費は前年度比で約 61%、6 億 5,771 万円の増額となっています。
- また、公債費(借入金)のうち、平成 9 年度に借り入れたごみ処理施設整備事業費の償還分は、平成 24 年度をもって完済となります。このことから、公債費は前年度比で 83%、4 億 7,998 万円の減額となっています。



## 連載



## 第 9 回 中央監視装置とは

ごみ処理施設は、焼却炉・ボイラー・タービン・コンベヤ等、多数の機器から構成されており、工場を安定かつ効率的に操業するためには、これらの機器が互いに関連し合いながら動作しなければなりません。

中央監視装置は、散在する機器の情報を一元管理するための装置であり、炉室内の機器および配管等に設置された約 8,000 点ものセンサーを介し、発信器により情報伝達を行います。

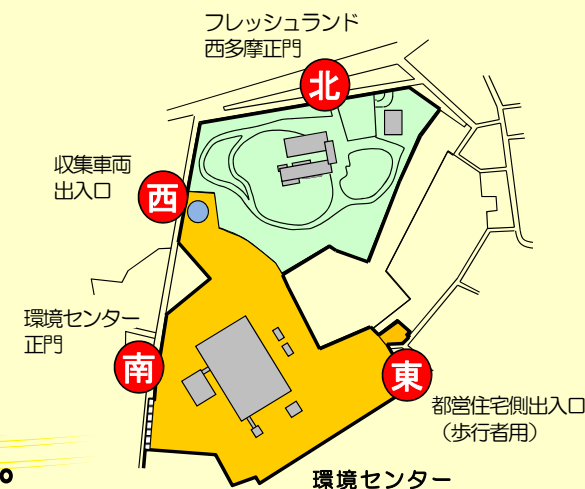
集められた情報は操作員が認識しやすいように処理・表示され、さらには機器の運転・停止の操作、制御、情報・記録の収集、異常時の警報発信等の機能を果たす重要な役割を担っています。

- 飛灰(\*注)中の放射性セシウム濃度および組合周辺の敷地境界線の空間線量率の測定結果は、いずれも基準値を下回っています。排ガス中の放射性セシウム濃度測定結果はすべて不検出でした。災害廃棄物受入れ前後において各種測定結果に大きな変動は確認されませんでした。

東京都による災害廃棄物受入処理事業では、女川町で安全性が確認された災害廃棄物だけが西多摩衛生組合を含む都内清掃工場へ搬出され処理されました。

### ■ 敷地境界線の空間線量率の測定結果

		最大	平均	監視基準	測定回数等	測定頻度
受入前	東	0.086	0.077	0.23	140回 [H23.7.26 ~ H24.6.5]	週1回 [H23.10.14~]
	西	0.083	0.073			
	南	0.091	0.083			
受入後	東	0.080	0.066		316回 [H24.6.12 ~ H25.2.27]	週1回以上
	西	0.077	0.062			
	南	0.078	0.070			



詳細な測定結果データは組合ホームページで公表しています。